

新しい農業経営手法「農業体験農園」の仕組みと モデル農園の運営状況について

～愛知県でも広がり始めた「農業体験農園」に取り組んでみませんか？～

近藤 裕子（尾張農林水産事務所農業改良普及課）

【平成27年3月17日掲載】

【要約】

農業体験農園は、農家（園主）が地域住民（入園者）に農作業を教え体験してもらい、対価を受け取る仕組みの農園で、新しいビジネスモデルとして注目されている。尾張農業改良普及課では、平成24年に名古屋市天白区でモデル園の開設、運営を支援し、経営的な評価を行った。結果、園主及び入園者の満足度は高く、十分な所得が得られることが明らかとなった。

1 はじめに

東京都練馬区で誕生した「農業体験農園」が、都市住民との交流により付加価値を生み出す新しいビジネスモデルとして注目されている。愛知県では、平成24年度に開設したモデル農園3か所を含め、現在9か所が開園されている。今回は、農業体験農園の仕組みとモデル農園の運営状況について紹介する。



写真1 整然と作付けされた体験農園

2 農業体験農園の仕組み

農業体験農園（写真1）は、いわば体験つき契約販売である。園主は、自らが所有している農地において、1年を通じて入園者を指導し、農業体験の場や栽培の知識、生産物を提供し、その対価として入園料を受け取る（図1）。

入園者は、農業者から直接、栽培の実技指導を受けることができるだけでなく、初心者であっても高品質な農産物を収穫することができる。

農地の提供にとどまるいわゆる「市民農園」とは異なり、耕作の主体はあくまで園主であるため農地法に基づく利用権設定など特別な許認可等が必要なく、相続税納税猶予を受けている農地でも開設できる（※）こともメリットである。さらに「市民農園」開設時の問題点として挙げられる管理放棄やマナー不足が少ないなどの利点もある。

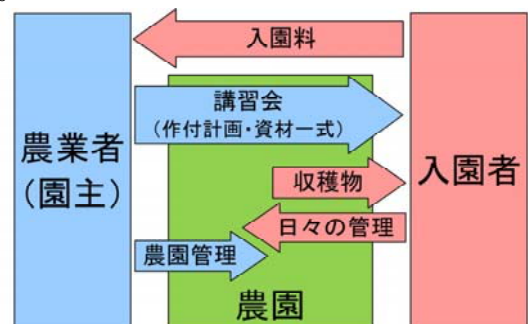


図1 農業体験農園の仕組み

※実際の開設時には、個別の事例に応じて税務署の判断を仰ぐ必要があります。

3 モデル農園の運営状況

(1) モデル農園及び地域の概要

農業改良普及課では、平成24年4月に名古屋市天白区で開設された農業体験農園をモデル農園として運営を支援し、ビジネスモデルの実証を行った。モデル農園の概要は表1のとおりである。作付け内容や入園料などは東京都練馬区の方法とほぼ同じとした。

同地域は、特産の八事五寸ニンジンやカボチャ、タマネギなど露地野菜の産地であったが、現在は区内の農地全てが市街化区域内にある。モデル農園は、住宅地内にある約8aの生産緑地を選定し開設した。

項目	概要
場所	名古屋市天白区
園主	市場出荷（人参・カボチャ）及び直売を行う露地野菜農家
農園面積	780m ²
区画	全18区画 (1区画あたり、個別区画25m ² +共同区画の割り当て分10m ²)
入園料	43,000円 ¹⁾ / 区画 (生産物の代金13,000円+講習料30,000円)
募集方法	・ほ場周辺住民への回覧板利用による募集（初年度のみ） ・市農業公園にて募集チラシ配布

1) 名古屋市内の市民農園の利用料の相場は、同面積相当にすると10,000～18,000円

(2) 1年間の流れ

モデル農園の1年の流れを図2に示す。準備は開園の前年12月から始め、栽培計画の作成、入園者の募集、農園の整備（図3）を行った。3月には入園者説明会を開き、入園料を受け取り、契約を行った。

4月に開講し、8月までは春夏作としてスイートコーンやトマトなど16品目、9月から翌2月までは秋冬作とし、キャベツやダイコンなど16品目を栽培した。



図2 農業体験農園の1年
(全国農業体験農園協会ホームページより転載、一部改変)



図3 農園の整備状況

園主は、月に1回程度講習会を開催し、定植から栽培管理、収穫の方法などを指導した。また、講習会のほかには、農園の見回りや入園者の管理のフォロー、農薬散布、耕うんや種苗の準備などを行った。

入園者は、講習会の日以外は自分の都合に合わせて栽培管理、収穫を行った。

(3) 入園者募集と入園料について

農業体験農園の入園料43,000円は、ビジネスモデルとして採算が合うことを念頭において設定されたものである。市民農園の入園料と比べると高額であり、当初園主は入園者が集まるか不安に感じていた。

初年度の募集は、ほ場周辺3学区（15,000世帯弱）を対象に回覧板で募集チラシを回覧した。その結果、18区画に対して16組の応募があり、うち13組は次年度も継続契

約を希望し高いリピート率となった。開設2年目以降、残りの空き区画分の募集は近隣施設でのチラシの配布のみで済み、現在は18区画全てが埋まっている状況である。

(4) 経営試算

モデル農園において、体験農園の開設により新たに発生した収支を聞き取り、10aあたりに換算して試算した。その結果、80万円を超える所得が得られた（表2）。この地区の一般的な露地野菜（冬：ニンジン、夏：カボチャ）の経営モデルでは、10aあたりの所得は約40万円であり、これと比べると大きく上回る所得が確保できると考えられた。ただしこれは、支柱や柵を竹で自作したり、大半の苗を育苗するなどの工夫で支出を抑えた結果である。また農業体験農園では、作物の栽培管理や収穫作業は入園者が行うため、園主にとっては集中した時期に重労働を伴うような作業が減ることも数字には表れない利点である。

表2 開設事例に基づく農業体験農園の10a当たりの収支の試算例

項目	金額（円）	備考
収入	入園料 1,075,000	25区画（@43千円）
支出 ¹⁾	施設費 51,500	1/3を計上（3年償却と仮定）
	農具費 41,700	1/3を計上（同上）
	種苗費 79,000	
	肥料費 30,300	
	農薬費 1,600	
	水道燃料費 29,300	
	消耗品費 ²⁾ 18,800	
収益	822,800	

1) トイレ、休憩施設を除く

2) 竹杭及び竹支柱、風よけは自家作成のため算入していない

(5) 入園者及び園主の声

開設から1年経過後に入園者アンケートを実施したところ「市民農園ではうまく作れなかった野菜が、ここでは全品目立派なものが収穫できた」などの意見が聞かれた。また平成26年度の参加者は全員が次年度継続を希望しており、満足度の高さが伺えた。入園料に対してもアンケートでは回答者全員が「安い」または「納得」と回答した。

園主は「講習に対して熱心な入園者が集まり、予想以上に協力的に運営された。作業負担は増えなかった。入園者に対する連絡等の手間はあったが、交流が楽しめた。」との感想であった。

4 農業体験農園の可能性

農業体験農園は、地域住民の農業へ理解を深めながら経営を存続していく上で有用な方法である。今回のモデル園は18区画だが、東京都農業体験農園園主会によると、80区画程度（約30a）までは、従来の農業経営を行いながら農業体験農園を始めることが可能であるという。開設・運営にあたっては、農業改良普及課のほか、平成22年に設立された全国農業体験農園協会が指導する仕組みも始まっている。農業体験農園の知名度は愛知県ではまだ低い、モデル農園の状況を見ると一定の需要はあると考えられる。農業体験農園の理解促進には、行政や関係機関が協力してPRしていくことも重要である。